

第2回 会社「生活給」についての要素は否定しないが… 交渉 業績給のウエイトは高く総合的に判断していく。 組合 業績は大幅に改善している！社員の生活改善にウエイトを置くべきだ！

「2025 年年末手当に関する申入れ」の第 2 回交渉が行われ、前段の営業からの収入動向および営業成績の説明を受け、団体交渉に行った。

組合からは「対前年を上回っていることは事実であり、物価上昇の中で春闘についてはベアが実施されても生活改善には届いていない。社員の厳しい生活を少しでも改善するためには 3.0 ヶ月の満額回答は必要である」と主張してきた。

会社は、「収入では前年をクリアしたが計画には届いていない。生活給の要素は否定しないが業績給のウエイトは高く総合的に判断したい」「意識しているのは昨年度の下期や今年度に入ってから経営状況であり生活給の要素は認識しており、賃上げではベア2000円を実施したが2.39%程度となり、一方の昨年度の消費者物価指数は3%以上であった事も認識はしている。これらを含めて総合的に判断していきたい」との回答に留まった。

組合は「会社が計画で見る事も理解するが、高過ぎる計画を未達成として判断されるのは理解できない。業績を見ればこの間少しずつでも上向いてきた中で、今回は決算でも大幅に改善している。社員は高い期待を持つ中で 3.0 ヶ月を求めていく」と主張し、2回目の交渉を終了した。

会社は「業績」と繰り返すが、会社を支える社員には「生活」だってある！

「中期経営計画 2026」も 2 年目に入り、2026 年 3 月期決算の業績見通しは連結経常利益 74 億円を目指すものである。

この間、国による新たな支援策193億円や「物流革新緊急パッケージ」による「10 年後の貨物鉄道輸送量の倍増」、この間2024 年問題や環境問題を含め貨物会社を取り巻く環境は大きく変化している。

しかし、その裏で社員・家族の「生活改善を最優先してほしい」切実な願いは未だに経営陣に届いていない。

貨物社員の実態は、「賃金・生活実態アンケート調査」結果でも明らかなように毎月の赤字額は 36000 円と年を追うごとに増加している中で経営陣は「生活給」である事を考慮し要求に満額で応えるべきだ。



ベア2000円実施だけでは生活は改善されない！
今こそ、要求に応え社員・家族の生活改善を！
次回第3回交渉6月5日(予定)

国鉄労働組合全国貨物協議会